Ｒ５年度　研究構想図

学習指導要領　総則
（１）基礎・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童の発達を考慮して、児童の言語活動など、学習基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること

尾久第六小学校　教育目標

〇心ゆたかな子

〇よく考える子

〇たくましい子

「荒川区学校教育ビジョン
学びの推進プラン」
（第２期　令和３年度～令和５年度）

＜重点推進目標２＞
主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善を推進する

→新学習指導要領の考え方を十分に取り入れ、話合いや書くこと、考える活動などの教育活動を行い、子どもたちに深い学びを実現させるよう取り組んでいく。

児童の実態

〇話すことは好き。
〇話合いに深まりがない。
〇文章から考えをもつことはできるが、深まりが見られないことがある。
〇表現しようとするところがあるが、言語化するのが難しい

目指す児童像

〇叙述から、考えをもつことができる児童

〇自分の考えを話し合いを通して、さらに深めることができる児童

研究主題

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成

～国語科「読むこと」を通して～

仮説

単元構成の工夫・学習過程の工夫を行うことで、自分の考えをもち、学びを深めることができるだろう。

研究主題にせまる手立て

単元構成の工夫	**学習過程の工夫**	**文章表現や描写に着目できるようにするための工夫**
・単元全体の目標の明確化 ・教材や読みのめあてに合った言語活動	・自分の考え→ペア・グループ→全体→振り返りの流れ ・考える時間の確保 ・ワークシート等の工夫 ・ＩＣＴの活用	・児童が考えたくなる課題 ・着目することを明確化

話し合いの土台 ・ 語彙力を高める環境整備 ・ 読書活動･